

アマチュア演劇 あきた

14.3.31

No.21

編集・発行
秋田県演劇団体連盟
印刷
(株)ウェーブ

「平和で自由な時代」に 健全な演劇の発展があった

秋田県演劇団体連盟 理事長

坂本 好逸



テロ、戦争、経済不安、政治家不信、命を弄ぶ異常殺人、偽りの食品表示、などなど。誠に如何なものか！と嘆きながらも自分とは関わりのない事と日常にまぎれて済ませてしまいます。

コンピュータウイルスの話は聞いていました。まさか自分には、と思っていた矢先、メールを通して感染してしまいました。ウイルス対策を怠っていた自分を情けなく恥ずかしい思いをしましたが、ウイルスを流した人間に対して腹が立つやら、悔しいやら……。

この世に人間が誕生してから、誰もが豊かさを求めてきたのでしょうか。豊かさを求めるが故に争いが生まれ

不幸をもたらしたのでありますようか。

演劇史をみると、人間を描き表現する舞台芸術として「平和で自由な時代」に健全な演劇の発展がありました。戦争や宗教的な束縛の時代、社会にはそれがありません。

人間を描き表現する演劇に携わっている者として、豊かさを求めながらも人間性を失ってはなりません。大変革の時代と言われていますが、「平和で自由な時代」を守ることも演劇活動を支えることに繋がるものと考えます。

戦後に始まった県内の演劇活動団体が、昭和四十四年に相互の連携を図り県内の演劇活動の高揚に努めることを目的に連盟を組織してから三〇年余になります。世代も変わり新しい風をいれながら歴史に学び、加盟団体の自主性を尊重し、恐れずに活動に取り組んで参ります。が、何よりも各団体の活動が連盟を支えるものになりました。今後の各団体の活躍を期待するものです。

小屋(劇場)がホシイ!

秋田県演劇団体連盟副理事長
シアター・ル・フォコンブル

代表 富橋 信孝

先日、「はっぽんの念」主催の歌とダンスとトークで繰る公演「はっぽんとさつこと…その仲間たち」が、角館町のはっぽん館で開催された。久々のはっぽん館での催し物だった。「はっぽん」こと俳優・山谷初男さんのアルバム「放浪詩集 新宿」(一九七四年)からの歌と、「さつこと」ことは、意外にもマッチしていた。二人共、自分の世界をキチンと出せる役者だし、その懐の広さが観客を魅了した。そして何より、間口4間弱・奥行2間弱の舞台と一〇〇人も入れ一杯になってしまふ客席(板敷き)の「はっぽん館」の空間が実によかつた。りっぱな舞台設備や、ゆつたりした客席がなくとも、濃密な演劇空間を創ることが出来ることを改めて思い知らされた。

開演前、「はっぽんの会」会員の寺田洋子さん(知事夫人)との会話は「こんな劇場、秋田市にもあったらいいわね。」だった。ああ、小屋(劇場)がホシイ!



演劇賞受賞

演劇賞受賞の喜び

横手演劇研究会 土谷久男



この度、私は秋田県演劇連盟より、演劇賞と言う身にあまる賞をいただきまして、心より感謝いたしております。今まで私を励まし、叱り、熱心に指導して下さいた先輩の皆様方、又、一緒に舞台作りをした仲間の皆様のお力添えがあったからこそ、今回の受賞と重く受け止めております。

今振り返ってみれば、初舞台を踏んでから二十年近くになります。さまざまな役に取り組み、何度芝居を辞めようと思っただけ知れませんが、演出の言う事が理解出来ず台本に向かつて何日も考えたり、台詞を覚える為、朝夕の通勤する自動車に常に台本を持ち込んだり、女房が入院中も病院と稽古場を往復する生活にな

った時もありました。しかし、いろんな人とも多くのすばらしい出会いがあり、芝居談議に一晚中華を啖かせた事もありました。

今回の受賞の重さを感じ、今後益々、地域文化の創造と、一人でも多くの芝居人口を増やす様精進し、多くの方々の協力を得ながら頑張りたいと思います。本当にありがとうございます。

演劇集団すかんぼ

本公演はなかったが...

13年度は稽古場でのミニ公演はあったが、会館などでの本公演はなし。メンバー交替などがあって、いま「朗読と語り」に力点において「基礎体力」を養う稽古に集中している。

“地域に根ざした演劇活動をどう展開していくか” 相変わらずこの命題を追いかけて稽古場に集まっています。

すかんぼ おのけんじ



事務局だより

平成13年5月26日
平成13年度理事会

5月11・12日 秋田市文化会館小ホール
シアター・フォニール第16回公演

12月24日 (秋田市文化会館小ホール)
クリスマス・スイブ・プレゼント公演
「モノ美」
作/竹内統一郎
演出/富橋信孝

7月14日 (能代市文化会館大ホール)
劇団能代小劇場 能代・山本曹洞宗依頼公演
「道元の夢」
脚本・演出/伊藤洋文

3月21日
劇団能代小劇場 峰浜村長泉寺依頼公演
「結婚の申し込み」
9月15日 (秋田ふるさと村ドーム劇場)
男鹿演劇研究会ふきのとう
「人を食べた話」
作/宮本 研
演出/近藤貞太郎

10月13日 (大館市民文化会館)

11月10日 (康楽館)

大館市民劇場第16回公演

「金色夜叉は大騒ぎ」
作・演出/保坂 豊

脚色/下村正夫
演出/瀬尾英子

11月10日 (鷹巣風土館)

たかのす劇団第10回公演

五義民伝説
秋女覚書
「濁流の章」
作・演出/三澤守一

12月8・9日 (ニッ井町福祉会館)
展業座第13回公演
2月10日 (ニッ井町福祉会館)
アンコール公演
「雨ニ毛負ケテ ふるさとの」
作/高木豊平
演出/工藤慶悦

平成14年1月12・13日 (横手市民会館)
横手演劇研究会/新企画舎/
横手アマチュア演劇研究所合同公演
浪漫ラブソeday
「姫君の冒険 いつか見た明日」
作/高橋 純
演出/加藤 直

2月23日 (花輪公民館ホール)
演劇を楽しむ会第11回定期公演
「たまくら地蔵停留所」
作・演出/高木豊平

2月23日 (横手市民会館)
第28回秋田県演劇セミナー
高校演劇3校によるモデル上演

脚色/下村正夫
演出/瀬尾英子

県南ブロック

夢を夢みて、夢を越え
「姫君の冒険 いつか見た明日」を上演して

新企画舎 代表 嶋田 修

県南の加盟団体が枠を越えて取り組んできた創作ミュージカル「浪漫ラブソアデー」シリーズの最新作「姫君の冒険 いつか見た明日」が、平成十四年一月十二日と十三日の両日にわたって横手市民会館で上演されました。

平成五年の「ベルエポック横手」から数えて四年目。準備期間を含め十年越しの完結です。

今回も新企画舎は、舞台監督と作者、また出演者として上演に関わることができました。

アマチュア演劇人と市民団民が、加藤直ほか現代演劇の最前線で活躍するプロスタッフを向こうに回した奮闘ぶりは、その出来ばえはともかく、イベントの概念を越えた文化資源としての定着を印象付けるものでした。

二日間にわたる公演は、大人りのお客様の拍手とともに幕を降ろしましたが、この成果をどう展開していくかがこれからの課題です。

大きな夢を一つ実現した今は、作品の中を生きた大勢の人物たちのように、さらに大きな目標に向かって、夢を追い、夢を夢みて、夢を越え、走り続けることが求められます。

ご支援いただきました

様と、上演を支持して下さった多くの方々から感謝申し上げます。

「ありきたりだけど、こんな報告でいいかな」

「オレに聞くよ、そんなの。舞台監督にじつくり舞台見せるヒマなんかないんだって」

「あたりを席から二回も見てない」「せめて来られなかった人に作品の紹介とか……」見に来てくれればよかったんだよ」

「……」

「感動の前二作をしてのぐシリーズ最高の出来事ってことでまごめっちゃっていいかな」

「見てない人は、ウソついてると思ってもいいから、言葉でうまく言えないから写真にして見てもらおうか」

「ホント。見に来てくれればよかったのにね」

一回再見無言。



県北ブロック

作品探しに
困ってる時の神頼み

展楽座 代表 工藤慶悦

「我々の様な地域劇団では、なかなかやりたい作品に出会えない。」と最近つくづく思う。やりたいが量と質と金銭的に無理だという大作品や昔やつたからやれるにはやれるけど、必死こいてやるほどの物ではないという、ぴたりとくる作品が見つからない。その点、劇団に座付き作家がいるところは羨ましい。北で言えば鷹巣劇団や大館市民劇場、そして花輪の演劇を楽しむ会などがそれである。とにかく毎回オリジナルな作品に出会える。その該当劇団に「まさに地域劇団の理想とするところだよ」と誉めまくっていたら、その劇団員いわく「でもね、たまには他の作品でやつてみたい時もあんなすよ」と。気持ちには分らないかもしれないが、まだ私に言わせれば贅沢である。

私も「昨年書いてみた。町が誘致した映画「大往生」のロケを見ながら東京もんには分かってないなとぶつぶつ言っていて、気がついたら自分で書いていた。「町は大往生、我が家は立往生」がそれで地域の特性を出したせいいか大好評で、気がついたら14回もやつてきた。だがそれはまたまであつて普段そんな才覚を持ち合わせるわけが無い。

決まって次回作は？と言うことにな

る。そこへ昨年は縁あつて高木豊平さんの作品「雨ニモ負ケテ、ふるさとの」脚本を上演させてもらった。おかげで大成功で、客の評価もバツチリでした。

むろん稽古途中苦しみまじやないとか、ぱりんの芝居はやるから出たんじやないかとか、でもみんなで頑張れば出来るんです。そして当日、高木さんはじめ演劇を楽しむ会の皆さんが大勢見に来てくれ、代表の武藤さんから「やっぱりこれは展楽座のオリジナルな作品でしたよ。」と言われ、じわーと泣けちゃいました。

結論から言うると各劇団の皆さん、作品探しに困ってる時は、仲間の芝居を見て、そこで感動したら座付き作家と交渉して上演許可を頂くんです。私なんかお酒でOK取りましたから、これって、やはいかな、ジャンジャン。



第28回 秋田県演劇セミナー を終えて

平成14年2月23日(土)・24日(日)

会場 横手市民会館

主管 横手演劇研究会・新企画舎・横手アマ研

県内の高校演劇部は、地区、県、東北、全国と文部科学大臣賞を目標に活動をしている審査員の評価だけを基準とし、演劇を上演する本来の意味とは少し離れるが、一定のレベルを保つことには役立っているのかなと思われ。演劇はコンクール制に馴染まないと思うのだが、その良し悪しは別の機会にする。

この度は、高校生の取り組み方、考え方、表現の仕方に、我々が忘れかけているもの、あるいは刺激になる表現があるのではなからうかと企画してみた。

二十三日のモデル上演には我々以外に一般のお客様?(家族かも)が入っていた。その為かコンクールとは違った緊張感で舞台上に立っているように見えた。



横手演劇研究会 宮川 昇

県内の高校演劇をリードしてきた湯沢高校演劇部、昨今著しい伸びを感じた平成高校演劇部、平成十三年度に県代表で東北大会に出演した横手高校演劇部、それぞれの舞台から洗練さと、伸びやかな表現を感じられた。

翌日(二十四日)は、参加者全員が講師になって感想を述べ、質問に答えた。実はその事が、自らの今後の活動に跳ね返って来るものであることに気づきながら、言葉を選んでいる気遣いを感じた。高校生にとっては様々な観方があり、我々も感じているように上演の思い、表現し伝えることの難しさをコンクールとは違った機会として出会えたと思う。

お互いの創造の糧となることを期待する。

秋田県演劇団体連盟・加盟団体名簿

演劇グループ十一人の会	伊藤 三喜	〒016-0132 能代市字町後69	0185-58-4619
演劇集団すかんぼ	小野 健爾	〒010-0005 秋田市東通明田3-28	018-834-0563
演劇を楽しむ会	武藤 廣子	〒018-5201 鹿角市花輪字上花輪46	0186-23-6545
大館市民劇場	瀬尾 啓示	〒017-0012 大館市釈迦内字台野道上58-34	0186-48-3630
男鹿演劇研究会ふきのとう	鈴木 美子	〒010-0201 南秋田郡天王町天王字北野234-25	018-878-4980
劇団「満」	佐々木孝悦	〒018-0602 由利郡西目町出戸字浜山3-207	0184-33-3051
劇団能代小劇場	伊藤 洋文	〒016-0891 能代市西通町16-5	0185-52-6739
シアター・シュターク	小野 文彦	〒015-0041 本荘市薬師堂字中道263-3	0184-22-4038
シアター・ル・フォンブル	高橋 信孝	〒010-1434 秋田市仁井田路見町3-17	018-839-5716
新企画舎	嶋田 修	〒013-0037 横手市前郷二番町2-23	0182-32-6272
たかのす劇団	成田 豊人	〒018-3301 北秋田郡鷹巣町材木町11-29	0186-62-9271
展楽座	工藤 慶悦	〒018-3115 山本郡二ツ井町海道上70	0185-73-5602
横手アマチュア演劇研究所	坂本 好逸	〒013-0004 横手市明永町11-58	0182-32-1110
横手演劇研究会	宮川 昇	〒013-0055 横手市朝日が丘3-20-15	0182-33-4993